



黒澤清先生の直筆色紙を拝して

副理事長 土田 勤

当協会第5代会長 黒澤清先生が遺された1枚の直筆色紙(別掲)が、今、協会本部に飾られています。

そこには、「與少樂樂 與衆樂樂 孰樂 不如與衆 黒澤清」と記されています。

この言葉は「少(しょう)と樂(がく)して樂(たの)しむと、衆(しゅう)と樂して樂しむと、いずれか楽しき。衆とともにするにしかず」と読み、中国・戦国時代の思想家孟子(紀元前372年〜前289年)の言行をまとめた書『孟子』の「梁恵王篇(りょうのけいおうへん)」が出典です。

孟子は諸侯に向かつて性善説を主張し、仁義による王道政治を目指しました。その中の齊(せい)の宣王とのやりとりの一節です。音楽が好きだという宣王に、孟子が尋ねました。

孟子「音楽を、少数の人と楽しむのと、大勢の人と楽しむのと、どちらが楽しいものでしょうか」

宣王「もちろん大勢のほうがかなわない」

続けて孟子が言います。「今、王様が演奏会を催されたとします。民はその鐘鼓や笛の音を聞いて顔をしかめ、『王様は音楽を楽しんでおられるが、なぜ俺たちをこんなどん底生

活のままにしておくのか。親子は会えもしない。兄弟妻子は離ればなれだ』と口々に不平を言うでしょう。これは王様が民と共に楽しんでいないからなのです」。

「王様が民と共に楽しんでおられるなら、民はその鐘鼓や笛の音を聞いて欣々と喜色をたえ、『王様はご病気ではないようだ。そうでなければこんなに楽しそうに楽器を演奏できるはずはない』と口々に言うでしょう」等と述べたうえで、「楽しみを、民と分かち合えなければ、民は離反します。楽しみを、民と同じくすれば、天下の王者になれるのです」と結んでいます。

黒澤先生のご逝去(平成2年3月)から四半世紀を経た昨年、協会創立60周年を迎える直前に、偶然にもこの色紙が見つかり、拝することができました。

「民」を「会員」に置き換えたとき、黒澤先生は「協会は会員のために！ 楽しみを会員と共に！ そうすれば……」と遺言されたような気がしてなりません。よくよく心したいものです。

(引用参考文献・「中国の思想『孟子』(今里禎訳) 徳間書店刊)